



●巻頭文は西山和宏氏



はじめに:霧島にまつわる神話「蒔かずの稲」

瓊瓊杵尊(ニニギノミコト)は木花之佐久夜毘売(コノハナサクヤヒメ)との一晚の契りで、3人の子を産ませたという目出度いお話です。

木花之佐久夜毘売は、絶世の美女で、その美しさを見て習い桜は今のような花を咲かせるようになったそうです。

瓊瓊杵尊は、イケメンの本家元祖と伝えられています。

西山和宏

蒔かずの稲

瓊瓊杵尊(ニニギノミコト)が高千穂の峰、高天原に降臨されたとき、霧に閉ざされ昼か夜さえ分からないほどであった。

それでも稲が自然に群生しているのを見て、それを抜き四方にばら蒔かれた。するとたちまち霧が晴れた。その後霧島山中に野生の稲が見られるようになった。

瓊瓊杵尊は天照大神(アマテラスオオミカミ)の孫で、天忍穗耳尊(アメノオシホミミノミコト)と栲幡千千姫命(タクハタチチヒメノミコト)の息子。初代天皇・神武天皇の曾祖父である。

瓊瓊杵尊が植えられた水稻が日本で最初の水田になった。その水田で収穫した新穀を新嘗祭のとき神に供えた。その水田は狭名田(さなだ)の長田とよばれ、そこから全国へ水稻が広がっていった。瑞穂(みずほ)とは、みずみずしい稲穂のことで、稲が多く取れることから瑞穂の実る国という。

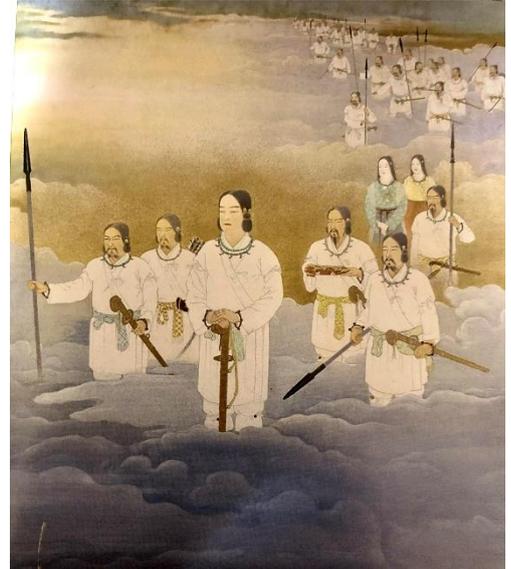
瓊瓊杵尊は木花之佐久夜毘売(コノハナサクヤヒメ)に一目ぼれし妻に迎えた。

一夜の契りで身籠った。

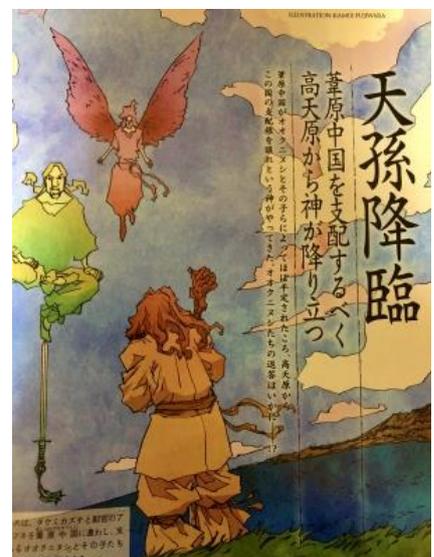
たった一夜の契りで身籠るのは怪しいと瓊瓊杵尊は疑った。

しかも生まれたのは3人。

「天を治める天照大神の孫、天津神である孫瓊瓊杵尊の子ならどのような状況でも無事に産まれるでしょう」と、木花之佐久夜毘売は言い放って、産屋に入ると自ら火を放った。



上写真の中央がニニギノミコト



天津神の子であったので、三柱の子が無事に産まれた。

瓊瓊杵尊

003 蒔かずの種 霧島神宮

火が燃え盛っていた時に生まれた子は火照命(ホデリノミコ、海幸彦)、やや弱くなった時に生まれた子は火須勢理命(ホスセリノミコ)、消えてから生まれた子は火折尊(ホオリノミコ、山幸彦)と名付けられた。

木花開耶姫命は無事出産を狭名田の新穀で祝い、3人の子への母乳が足りないときには、甘酒を作って育てられたとも伝えられている。

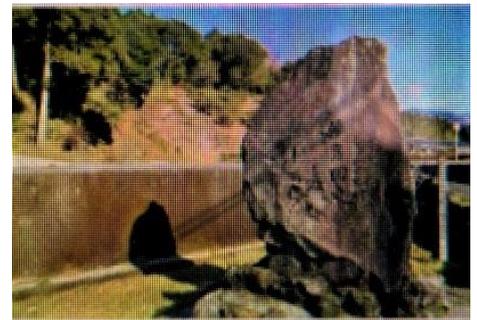
山幸彦の孫が神武天皇、海幸彦は隼人族の祖と伝えられている。

木花之佐久夜毘売は、火が燃え盛る中でお産をしたことから火除けの神、安産の神として富士山本宮浅間大社に祀られている。

島津齊彬のころ、霧島に田の神が建立され、大正4年、村人たちによって「狭名田の跡」という石碑が建てられた。昭和4年、「霧島神宮の神田として永く保存されることになった。

しかし、昭和21年、農地改革によって一時は民有地になったが、平成8年、神宮の神田として再び保存されるようになった。

狭名田の跡付近一帯を狭名田の長田という。御田植祭りは6月第1日曜日に行われる。



霧島には、天孫降臨の際に高天原からもたらされた真名井の水が含まれていると伝えられる御手洗川(みたらしがわ)をはじめ、文字岩、亀石、風穴、両度川など霧島七不思議伝説がある。

●大石より <https://www.saito-kanko.jp/mascot/>

●ニシヤマ発

いや～良いものを観せていただきました都萬神社の祭神がコノハナサクヤヒメとは古代ロマン西都、



コノハナサクヤヒメの物語そのまま夜の祭りの輪の中で燃やしていたのはコノハナサクヤヒメがお産のときに火を放った産屋でしょう。

本当に感激したビデオでした。
ありがとうございました。



以下新年に来たいろいろ(賀状も…)

●2023年の幕が上がりましたね。

新年、明けましておめでとうございます！

毎月、末日にはお届けするようにしている【八期オンライン通信】ですが……



今回お12月分は年賀を兼ねて元旦に発信しようと、出来上がったPDFを「下書き」に保存していました。

本来なら、文章を賀状に並べてレイアウトするつもりでしたがメール画面では、ワードのように思う通りにレイアウト出来ませんでした。

ワード上で作って画像としてコピーしたらましの出来そうですが、今回はこのままです。

横着してメールやスマホ上で年賀状を作ろうと試行錯誤しました。

結局、書いてポストに入れた方が楽だったかなア…そんな気持ちです。

スマホで何十人の方にダブらないように送信するのも結構、手間がかかるものですね。

コロナも(気持ちの上では)落ち着いて来ましたか？飽きてきたと、というのが本音で、実際の数字はそうではありませんね。

入院したら(施設もそうですね)なかなか面会できません。

この1年のあいだに珍しくないほどの数の友人知人が病院のお世話になりました。

旅仲間で作っている『八期旅仲間 LINE』でも7名のメンバーのうち、3~4名の家庭で、救急車のお世話になっております。

それでも、昨年末から、コロナ前の雰囲気には戻りました。

今年はますます活発な人の動きが始まることでしょう。

私たちに、残された時間が多くはありません。

チャンスが来たら逃さず飛び乗りましょう！そして、動けなくなったら観念して、歩けない楽しみを見出しましょう！！

この『八期オンライン通信』も指先さえ叶えば何とか打つことが出来るのでもうしばらくは、ネタ(原稿)さえあれば続けられます。

確かに、(遅まきながら)時代は変わって、スマホ人口が私たち八期会にも浸透して来ました。

新年度(2023年)から名称を『八期オンライン日記』に変えます。メモのつもりで投稿してください。

八期のアイドル・みなみちゃんも、更なる飛躍を遂げましたね。



新年早々、アメリカ・ツアー「初優勝」の朗報が飛び込んできそうな予感がします。

さあ！！！！！！

皆さん！頭を挙げて、首の運動でもして、行動を開始しましょう！

●元旦 西山コメント

皆様 明けましておめでとうございます。



お互いにこの年まで生き延びられたことは奇跡かもしれません。
加えて、大石さんのお陰で 大勢の同期と頻りに交流できること
いうことを世間にそうあることではありません。



今月も「八期オンラン通信」楽しく読ませていただきました。

同期ではない友人から年賀状に「仕事を止めたらすっかり暇になった退屈している」とあった。

みなさん「八期オンラン通信」への文案を考えれば退屈はしない。ボケ防止にもなる。もっと長生きできることを保証します。

今年も「八期オンラン日記」への投稿を楽しみながら良い年にいたしましょう。引き寄せよ宝船！

●下池コメント



期生一同、今年も無事で何よりでした。ホッ。

一方、記録的に夥しい数の身近な知人、縁故者が急逝、突然に旅立ち、弔辞に追われた国家的事件の年でした。ハラ、マタモウ、マタナ？の連続。どこの、誰が、いつだったか、とっさに思いだせない。

故人様方のご冥福を改めて祈念致すと共に、言いそびれた方々には、ここにまとめてお悔やみ申し上げます。

上山コメント



八期会の皆さま、新年明けましておめでとうございます。
昨年同様今年もよろしくお願ひ申し上げます。

兎 🐰 年、穏やかな日々でありますように！

今年こそはコロナの終息と、ロシアの侵略戦争が終わり、ウクライナ🇺🇦に春が訪れることを願うのみです。

皆さま年なりの元気さで、無理せず前向きに、毎日を大切に過ごしましょう。

市来龍作コメント



今年わアメリカ参戦🇺🇸一年間元気で頑張れみなみ、楽し身です、応援
よろしくお願ひします

画像入り

南郷コメント



新年明けましておめでとう🎁🍰🎉今年も足腰鍛えて元気で飛び回れるように頑張っていきましょう(ガンバレ) 画像入り

下池コメント



A happy new year



meine Damen und Herren !

世界中の人が観て聴いている ニューイヤーコンサート
先ほど始まりました。NHK 第二。

ビロードのような

ウインフィルの音使いを楽しみましょう。

本田コメント



八期会の、皆様、明けましておめでとうございます。

下池どん、ウインフィル、楽しみましたね？ 小生、ウインは、クラシックファンとして、大好きな都市であり、1昨年の4回目、の旅のときも、4泊して、楽友協会ホールとコンチェルトハウスのコンサートを、2晩、観賞してきました。

あの楽友協会のおおきな、シャンデリアの明るいしよめいと、天井や壁の装束ご見事であり、何よりもすばらしい音響のホールです。貴兄の若い頃の、チェロ弾きの、ゴウシュを、思い出しました。

村上コメント



謹賀新年終活し 行雲流水 八十路坂今年もよろしく
お願いします

柴田コメント



おめでとうございます。関東は素晴らしい
快晴です。過ごしやすい
元旦を迎えました。今年も

元気に皆さんと共に頑張ってください シバ
ロックンロールより

森コメント(歴史会)



今朝長田神社の歳旦祭に参列して今年の無病息災
を祈願してきました。(写真)

●下池コメント(画像付き)

学友協会ホールは行たっみろごたっな。天井を支える乙女彫像、ギリシャ神殿と同じもの、西洋天空の世界、いいもんなあ！休憩時の本場ワインもまた極上。ああ、また行きたいもんじゃ。



本田コメント旅がすきで、ヨウロツバのなかでも、特に、ウインと、スイスすきで、遅まきながらの、金婚記念で、ウインとマツダアホルン、ツエルマツ、ジュネーブなどへの、個人旅行を、楽しんできました。

ウインでは、2回のコンサートのほかに、プラムスや、ヘートーベンなどの墓などにも、お詣りしてきました。レマン湖クルージングも印象的でした。



寛子コメント



本田様 懐かしく拝見しています。素晴らしい所に、旅行されて、羨ましく、又 懐かしく思い出しています。

楽友協会は、コーラスで、歌って来ましたし、スイスの山とレマン湖 も、素晴らしかった事を、思い出しています。

フランスでは、お城をいくつか 見て回り、画家達の よく訪れる所に 行ったり、本場のシャンソンを聞きに、町外れに行ったり、思い出しています。もう 高齢になり、行くことも、無いだろうと、懐かしく拝見しました😊

●1月5日



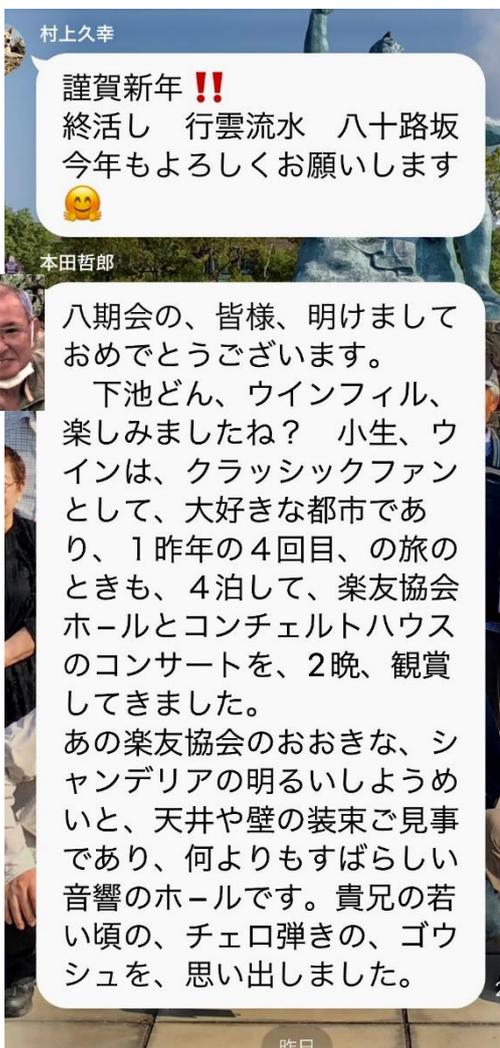
安部洋子

寒中お見舞い申し上げます。昨年末に主人の 49 日法要も終え、ほっとしているところです。

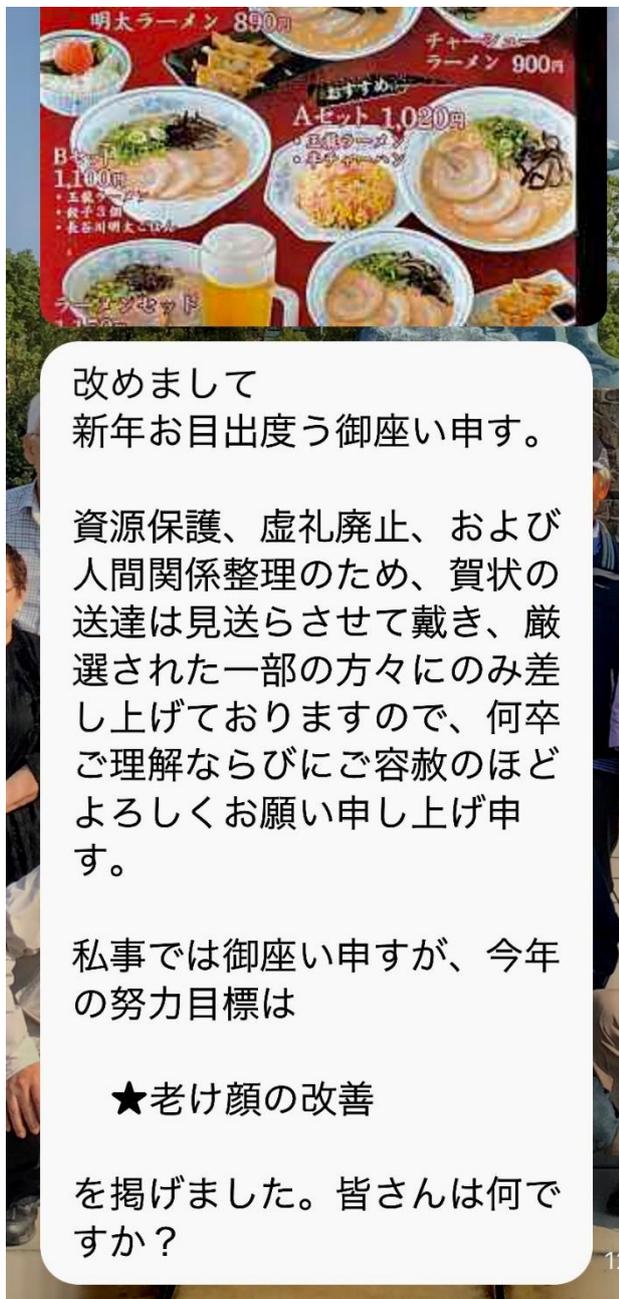
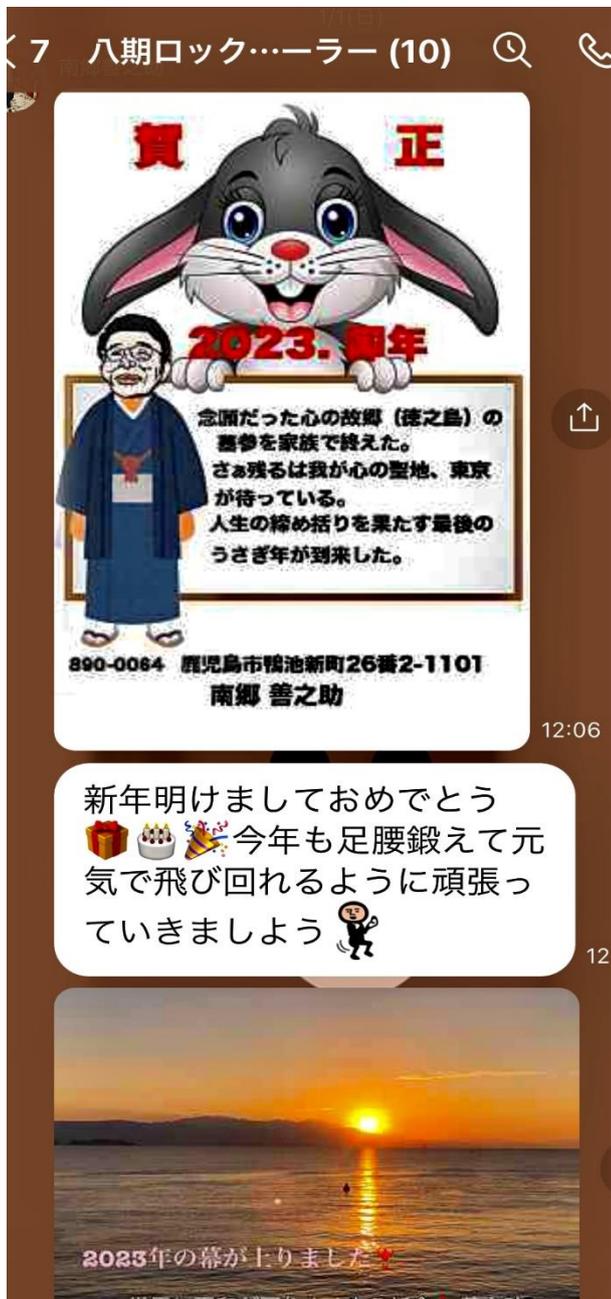
年始は娘たちの家族と一緒に毎年訪れる那須高原、板室温泉の宿に一泊し和やかな時を過ごしました。

ウィーンのニューイヤーコンサートの話題が出ていましたが、長女夫婦は 25 年前に 3 年間、更に、四年前から二度目の駐在で

ウィーンに住んでいます。音楽と自然が好きな夫婦で娘はブログもやっていますので、良かったらご覧くださいませ。本年も宜しくお祈りします !!



瑞代さんコメント



●1月4日 西山



絶対に捕まらないようにします」

「絶対に捕まらないようにします」元電通“五輪招致のキーマン”への安倍晋三からの直電

今朝、こんな記事の見出しが目につきました

安倍さん死して、旧統一教会、五輪汚職の問題を残したようです。

ことはどうあれ、今に残す影響力も抜群でした。

=====西山和宏 070-2796-4878=====

●「絶対に捕まらないようにします」元電通“五輪招致のキーマン”への安倍晋三からの直電——2022年 BEST5 西崎 伸彦

1時間前 2022年(1月~12月)、文春オンラインで反響の大きかった記事ベスト5を発表します。シェア部門の第3位は、こちら！(初公開日 2022年9月14日)。

* * *

司直の手に落ちた「五輪招致のキーマン」と「長銀を潰した男」――。文藝春秋 10 月号より、ジャーナリスト・西崎伸彦氏による「高橋治之・治則『バブル兄弟』の虚栄」の一部を掲載します。

「中心になってやって欲しい」

東京都が 2016 年五輪の招致に敗れ、再び次の 2020 年五輪招致に向けて正式に立候補を表明した約 1 年 3 カ月後。12 年 12 月に、それまで下野していた自民党が再び政権に返り咲き、第 2 次安倍晋三内閣がスタートした。安倍政権が肝煎りで推進した五輪招致 安倍政権が肝煎りで推進した五輪招致のキーマンとなる男は、当時の状況について知人にこう話している。

「最初は五輪招致に関わるつもりはなかった。安倍さんから直接電話を貰って、『中心になってやって欲しい』とお願いされたが、『過去に五輪の招致に関わってきた人は、みんな逮捕されている。私は捕まりたくない』と言って断った。

だけど、安倍さんは『大丈夫です。絶対に高橋さんは捕まらないようにします。

高橋さんを必ず守ります』と約束してくれた。その確約があったから招致に関わるようになったんだ」

しかし、その五輪招致が実を結び、大会が無事終わった後、約束の主、安倍元首相は凶弾に倒れ、招致のキーマンだった男は司直の手に落ちた。

東京地検特捜部は 8 月 17 日、受託収賄の疑いで東京五・パラリンピック大会組織委員会の元理事、高橋治之容疑者(78)を逮捕した。高橋氏は大会スポンサーだった紳士服大手の「AOKI ホールディングス」から総額 5100 万円の賄賂を受け取っていたとみられている。

2

高橋氏はゴルフを通じて AOKI の創業者で前会長の青木拓憲と知り合い、17 年 9 月に自ら経営するコンサルタント会社「コモンズ」で AOKI と顧問契約。その後、AOKI が東京五輪のスポンサーになる過程で、便宜を図り、他にも AOKI 側から競技団体へ拠出された寄付金の一部、2 億 3 千万円が高橋氏の元に渡っていたことも発覚した。

贈賄側も青木前会長、実弟で前副会長の青木寶久氏や寶久氏の秘書役だった専務執行役員も逮捕された。

「AOKI は後発で始めたカラオケの『コート・ダジュール』や結婚式場の『アニヴェルセル』は好調ですが、肝心の洋服事業が苦戦しており、五輪の公式スーツの受注などを浮上の起爆剤にしたいと考えていた。青山の『アニヴェルセル』には会長や副会長が使うプライベートラウンジがあるのですが、そこで高橋氏や大会組織委員会の会長だった森喜朗元首相などをもてなしていたそうです」(青木前会長を知る会社役員)

高橋氏は、元電通専務で、スポーツビジネスに精通し、絶大なる影響力を持つ大物として知られていた。

だが、彼は 13 年 9 月にブエノスアイレスの IOC 総会で開催都市が東京に決まり、翌年 1 月に大会組織委員会が発足してもすぐには理事に選ばれなかった。

35 人目の最後の理事枠に彼を押し込んだのは森元首相だったが、高橋氏には計算もあった。五輪のスポンサー選びを担う専任代理店には 4 社が手をあげ、最大手の電通が指名を受けた。実質的にその下に広告大手の ADK グループが入る形になったが、電通の受注に関与した疑惑を持たれないよう、高橋氏は結果を見極めたうえで理事のオファーを受けたのだ。

もちろん、冒頭の五輪招致への関与に消極的だったとの発言も単なる“ブラフ”に過ぎない。

IOC 総会に突然現れた高橋氏

09 年 10 月、デンマーク・コペンハーゲン。16 年の五輪招致活動に関わった幹部の 1 人は、雌雄を決する IOC 総会を目前に控え、現地に高橋氏の姿を見つけ驚いたという。

「招致活動にほぼ関わっていなかったはずの高橋氏が突然現れ、票の行方を握るセネガル出身のラミン・ディアク国際陸連会長(当時)に接触し、『ラミンはアフリカの 16 票を纏めたと知っている』という情報をもたらしたのです。結果的に日本は敗れましたが、初めから高橋氏を頼るべきだったという後悔だけが残った。次の五輪招致は、高橋氏頼みになることは目に見えていた」

そして高橋氏は招致委員会のスペシャルアドバイザーに選ばれた。

3

スポーツマフィアが跋扈し、生き馬の目を抜く世界で、高橋氏が力を持ち得たのは、彼の 1 歳違いの弟の存在を抜きには語れない。それが「環太平洋のリゾート王」の異名をとり、バブル期に数々の伝説を残しながら、のちに「長銀(日本長期信用銀行)を潰した男」と呼ばれた故・高橋治則氏である――。

ペレ引退試合で頭角を現す

治則氏は終戦の年、1945 年に父親の実家がある疎開先の長崎県平戸島で生まれた。高橋家のルーツは平戸藩の藩士とされ、母方の遠戚には元運輸相の大橋武夫や「ライオン宰相」として知られる元首相の浜口雄幸がいるという。

一家はその後、東京に移り住み、高橋兄弟は慶應幼稚舎から慶應高校へと進んだ。兄、治之はそのまま慶應大に入ったが、治則は一度、高校を中退し、世田谷学園に転入した後、再び大学で慶應に入り直した。2 人にとって慶應人脈はその後の人生のベースになっている。治之氏は旧皇族の竹田家の次男、竹田恒治氏と同級生で、のちに JOC の会長になる 3 歳下の三男、恒和氏とも幼少期から親しく付き合う仲だった。

大学を卒業した高橋兄弟は、兄は電通、弟は日本航空に就職した。

67 年に電通に入った兄が配属されたのは大阪支社の新聞雑誌局だった。3 年後に開催される大阪万博関連の仕事で、和歌山県選出の山口喜久一郎衆院議員の秘書だった中西啓介氏と知り合ったとされる。のちに中西氏は衆院議員となり、高橋の弟、治則氏と刎頸の友となるが、最初の出会いは兄の方だった。

高橋氏がスポーツ事業で頭角を現したのは、サッカー界の英雄ペレの引退試合を成功させた 77 年だ。ペレの引退試合は国立競技場が超満員となる大成功を収める

ノンフィクション作家の田崎健太氏の著書『電通と FIFA』には、その時の様子がこう描かれている。
<ペレの引退試合の話を目にした高橋は「自分に任せてくれれば必ず成功させる」と手を挙げたという>

結果、ペレの引退試合は国立競技場が超満員となる大成功を収める。噂を聞きつけたサッカーのワールドユース大会のスポンサーだったコカ・コーラ社が高橋氏を直々に指名。その後、日本で開催されるワールドユース大会の事務総長として来日したのが、ブラッターだった。彼はサッカー界に君臨する FIFA 会長、アベ

ランジェの側近であり、自身ものちに FIFA の会長に就任している。高橋氏はスポーツ界の中枢に繋がる鉱脈を引き当てたのだ。

4

高橋氏が、ペレの引退試合を成功させた年、弟の治則氏は日本航空を辞め、電子部品を輸入販売していた「イ・アイ・イ」(EIE)に入社する。日本教育テレビ(現テレビ朝日)の取締役だった高橋兄弟の父、義治氏が、EIE の再建を頼まれ、社長に就任。治則氏は副社長として実業の世界に足を踏み入れた。

安倍晋太郎との蜜月ぶり

治則氏は、日本航空時代に“北海道の政商”と呼ばれた北海道テレビの創業社長、岩澤靖の次女と結婚。結婚披露宴には後に首相に就任する三木武夫や福田赳夫ら大物が挙って出席し、政治家志望だった彼は次第に政界に人脈を伸ばしていく。

EIE は、円高の追い風に乗れ、危機を乗り切り、業績は上向き始めた。そして治則氏は、その手腕を見込まれ、82年に協和信用組合(※)の立て直しを依頼されるのだ。

彼はそれまで培った人脈を駆使して瞬く間に 10 億を超える預金を集めてみせた。

その中には田中角栄の金庫番で、「越山会の女王」と呼ばれた佐藤昭子の名前もあった。佐藤の元には前述した中西啓介氏が頻繁に通っており、中西を通じて治則氏も出入りするようになったという。当時、自民党の実力者だった小沢一郎衆院議員とも佐藤を通じて近くなった。

その頃、治則氏と同じマンションに住み、のちに事業で深く関わった山口敏夫元衆院議員が語る。

「私はノリちゃん(治則氏)もハチ(治之氏)もよく知っていますよ。ハチは電通で派手にやっていたけど、あれは EIE のカネでうまくやっていただけ。

兄弟は全然性格も違います。政治家とメシを食う時にはノリちゃんを呼んでいろいろ紹介しました。

安倍晋太郎とは以前から関係があったようでしたが、私のお陰で仲良くなった」

高橋治則氏にとって安倍晋三の父、晋太郎は政治家のなかでも特別な存在だった。

治則氏と 20 年来の付き合いだった知人が明かす。

「2 人は頻繁に会食をしていました。『次は自民党の幹事長になる』と治則氏が嬉しそうに話していたことを覚えています。

『普通の人だけど幹事長になれちゃうんだよね』と肩肘を張らない関係だった。

一度お互いに古い家系図を持って来て突き合わせてみたら、どこかで繋がっていたという話もしていた。

平戸がルーツの高橋家とは遠戚関係にあるようでした。秘書として晋太郎さんに付くようになった晋三さんのことも可愛がっていて、『経済のことを何も知らないからな』と言っていろいろと教えてあげている様子でした」

5

「スペシャルマッサージ？」

その後、協和信組トップの背任事件などもあり、実績を残す治則氏は非常勤理事から副理事長へと取り立てられた。そして 85 年 5 月、協和信組から改名した東京協和信用組合の理事長に就任する。のちに 85 年は「バブル元年」と言われるが、金融機関を手中に収めた治則氏は、狂乱のバブルへと突き進んでいく。

彼はその後、メインバンクとなった長銀から EIE インターナショナルに湯水の如く注ぎ込まれた融資を元手に、ゴルフ場開発やリゾートホテルの買収に手をつけた。

サイパンの「ハイアット・リージェンシー・サイパン」を 42 億円で手に入れると、オーストラリアでは、「リージェント・シドニー」を 130 億円、「ハイアット・リージェンシー・パース」は 120 億円で取得。2 機のプライベートジェットで世界中を飛び回り、香港、ミラノ、ニューヨーク、タヒチなどでも次々とホテルを買い漁った。グループの資産は 1 兆円を超えた。

「お金に頼着しない人で、財布にはお金は殆ど入っていませんでしたが、海外では勝手に違った。バンコクでマッサージを頼んで、数えもしないでお金を渡したら『スペシャルマッサージ？』と言われたと笑っていました。聞くと、凄い金額を払っていた。オーストラリアに行った時は、あとでホテルから『現金のお忘れ物があります』と連絡があったのですが、チップ代わりに札束を置いてきたようでした」(同前)

※事実関係を確認したところ、治則氏が立て直しを依頼されたのは「協和信用金庫」ではなく「協和信用組合」であると判明したため訂正しました。(9 月 26 日)

●木場コメント



西山さん

新年の挨拶 凄いものを見せて 頂き有難うございます。

安倍さんのお墨付きをいただいておられた方も 安倍さんが健在であったなら どのようなことになっていたか・・・話題となりそうですが・・・

記事を読ませていただきました。真相の黒幕は 元首相 森さんでは・・・との噂もあるようです。札幌 冬のオリンピック開催の話も どうなっていくのでしょうか？

今、日本の置かれた立場で 防衛 防衛費 UP、消費税 UP などなど 岸田政権のかじ取りに 国民の関心を持つべきと感じている次第です。

コロナ感染も 中国のゼロ対策 解除に伴う 中国正月旅行者 入国 感染拡大懸念 国内の感染も 落ち着いてない状況の中で どのようにしていくのか 関心持っています。

まあ、このような中、不安 いっぱいの年明けとなりました。

私共80歳過ぎ これからの余生を 健康にすごしていく、まだまだ、不要不急な外出を控えるように・・・と 言われている シニアマンション生活の中で 今年一年元気に過ごしていけたら・・・と思っている次第です。

木場 祥雄

●西山アンサー



木場さん 返信ありがとうございます。

いわゆる大会社の社員で、あるとき、「それは外国企業の特許に触れますよ」と忠告したら「訴えられたら、法務部が対処しますから大丈夫です」と言った。

大組織は偉い人々の天下りを受けて後輩に圧力をかけているのでしょう。

目出度く参議院議長に就任した尾辻さん、安倍さん存命なら実現しなかった人事とされています。

尾辻さんは、かつて石破さんの総裁選挙の責任者を務めた安倍さんの仇であった。

懸念することは、日本の政府・政界の中枢にいる偉い人たちのスキャンダルを外国諜報機関に把握されないかということである。それによって国益を害しないかということである。

ところで、正月2日、岸田総理は夫人と息子を伴って八重洲の書店を訪れ「カラマーゾフの兄弟」上下など計 15 冊の書籍を購入されたそうな総理大臣が「カラマーゾフの兄弟」を読むとは、余裕綽々普通の読書家から、海外移住の時でもない限り一度に 15 冊も購入しないである 15 冊、どのようにして持って帰ったのであう。書店の後、理髪店を訪れた。

自民党が政権を奪還してから 10 年、その 10 年間の GDP 成長率は合計で4%、年率 04%。

そんな日本でも なんとか生活しています。

米国バージニア州は、今年1月1日、食品にかかる消費税2.5%を1%に引き下げました。

=====

西山和宏

070-2796-4878

=====

お正月のLINE『八期会』『八期歴史グループ』『八期ロックンローラー』より。



友達から来ました。爆笑しました 🤣 南郷善之助提供

シニア川柳 パート(1)

◎お迎えはいつ来ても良いが今日はイヤ

◎歳をとり美人薄命嘘と知る

◎年だもの最後だわねとまたハワイ

◎来てやった貰ってやったで50年

◎八十路越え大器晩成まだならず

◎デザートは昔ケーキで今菓

◎その昔惚れた顔かと目を擦り

◎転んで泣いてた子が言う「転ぶなよ」

◎九十を過ぎても気にする中国産

◎驚いた惚(ほ)れると惚(ぼ)けるは同じ文字

◎物忘れ昔からだと負け惜しみ

◎美しく老いよと無理を言う

◎動かないエレベーターや押し忘れ

◎壁どんでズボンの履き替えやっとな出来

◎女子会と言って出掛けるディケア

◎人生に迷いは無いが道迷う

◎生き甲斐は何かと聞かれ「生きること」

◎温かく迎えてくれるは便座のみ

◎遺言書「全て妻に」と妻の文字

◎石段の下から拝む寺参り

◎畑仕事時々立ってイナバウワー

◎あーんして昔ラブラブ今介護

- ◎「先寝るぞ」「安らかにね!」と返す妻
- ◎突然に医師が優しくなる不安
 - ◎イビキより静かな方が気にかかり
 - ◎起きたけど寝るまで特に用もなし
 - ◎金が居る息子の声だが電話切る
 - ◎徘徊と噂されて散歩止め
 - ◎不満なら犬に言うなよオレに言え
 - ◎来世も一緒になろうと犬に言い

大石



隈元くん！

寂しくて慌ただしい 2023 年の年明けだったことでしょう(寂しい)今日は誕生日(誕生日)(こんにちは)(こんにちは)おめでとうございます(おめでとう)(おめでとう)(おめでとう)

隈元くんさえよかったら 1 月に延期した『森くん宅お食事会』併せて『クマタツ励ます会』をしたいですね。

南郷善之助



隈元君明けましておめでとう🎁🍰🎉合わせて誕生日おめでとう🎵🌟😄🌟🎵気持ちは少しは落ち

着いてきましたか?!?しばらくは色々大変でしょうが時間が過ぎれば必ず太陽☀️が登ってきます(太陽)

頑張っていきましょう(ガンバレ)

森



こちら母の五十日祭を終えてやっと落ち着きました。隈元君の誕生祝いと励ます会を是非開催したいですね。

本田



私も、隈元君を、励ます会、是非、参加させて下さい。

ただ、今や透析が、毎週、火、木、土と決まっており、それ以外の日であれば、大丈夫です。 月、水、金の、どちらにしていただけりば、ありがたいです。ヨロシク！

森

20 日金曜日はどうでしょう!?



大石

今のところ予定ナシ。「起きたけど寝るまで特に用もナシ」「余白の多いカレンダー📅は必要なくなります」

隈元



私も 20 日は OK です🙏

●6日「歴史会」日曜 日



● 寒中お見舞い申し上げます。昨年末に主人の49日法要も終え、ほっとしているところです。



年始は娘たちの家族と一緒に毎年訪れる那須高原、板室温泉の宿に一泊し和やかな時を過ごしました。ウィーンのニューイヤークンサートの話題が出ていましたが、長女夫婦は25年前に3年間、更に、四年前から二度目の駐在でウィーンに住んでいます。

音楽と自然が好きな夫婦で娘はブログもやっていますので、良かったらご覧くださいませ。

本年も宜しくお願いします!! (阿倍)

今年もからいも餅をいただきました(阿倍)

●文明交流センター、

ウィーンは人種偏見少なく、世界の都。住まう人に幸あれー。



さてと、一句。

シニア川柳、

笑う度に

シワが増え。(下池)

●ヒトラーのユダヤ人迫害を教訓として人種偏見をしないように努めているのでしょうか。そういえばベトナム人らし



きレストランが並んでいるその店先には松花堂弁当風のもものがたくさん並んでいました。路面電車がコトコト走る古きよき街です。(西山)

ウィーンは曾て大帝国の都、四方から異民族を集め、その上りで宮廷文化の華を咲かせ、その香りに今も異邦人が押し寄せ、その懐で食っている。



●このインド系ジプシー男、ウィーン文化を築上げた超有名人。さて、誰でしょう?? (下池)



●ヨハン、シュトラウス2世(大石)



●ピンポーン!

さすがい。

奥様もインド顔のようで。鹿児島でもよく見やせんけ?(下

池)

だからか、彼作曲の「ジプシー男爵」の曲想は真に迫っている、とはボクの独断、許されよ。まあ、聴いてみなされ。(下池)



●美しく青きドナウもよかよ(森)



●今年の元旦の夜のウインからの衛星中継放送でも演奏されましたが、美しく青きドナウの、歌は、今や、オーストリアの第二の国歌と言

われているほどで、ウインフィルのニューイヤーコンサートの、アンコールの最後から2番目に演奏される曲となっています。



最後は、ラデツキー行進曲、ヨハン1世、で、時々は、足と拍手で、聴衆と、(手)楽しみながらの、コンサートの終わりとなります。

自分は、真夏のウインフィルの演奏会でしたが、やはり、この順番での演奏でした。

イタリアでは、オペラ、ナブッコのなかに出てくる、行け、我が想いをの歌が、イタリアの第二の国歌といわれるように、オーストラリア人にとっては、最も親しい国民歌となっているという事になります。(本田)

●26日は市の福祉バスを使って中部地区高齢者クラブ会長研修旅行で吹上町の大汝遅神社～万世特攻平和記念館～吹上砂丘荘(昼食)～美山遊芸館を巡る日帰り旅行に参加します。大汝遅神社は本田さんに案内されて行った大楠のある所かと思っています。(森)



●森さんは、ホントに、ご活躍ですね？！

そう、大穴牟遅神社の表参道沿いに林立しているのが、千本楠です、



おの10本たらずの、大きくて異様な大楠には、蒲生の史談会の方々も、伊作に負けたと、言っておられました(本田)

●メール有難うございます！ やっと入院していた利用者様が退院平常の日々に戻りつつあります。今月後半のシフト組みますので27日予定に入れたいと思います！楽しみにしますね。23年も八期会メンバーさんのメール楽しみです。(楽しみ)(洋子)。



●その退院した輩が、昨日の心臓の精密検査、心臓シンチ、で、心臓下部に血管の通りが、不良らしく、カテーテルを、腕から神像に挿入しての、検査、治療をまたもや入院しての指示を、受けました。

今回は、3日間だけだとの事ですか、この年末年始は、メチャクチャの身体に、なってしまい、つくづく、老生を、



感じています。27日、の隈元さんを励ます会も、自分も、奮い立たせる契機にしたいです。(本田)

●『本田哲郎さんに皆のパワーを注入する会』をサブタイトルにしましょう。と言ってもパワーをもらう人ばかりかもしれませんが...(大石)



●みなさんの、掛け声、ありがとう！

こうなつたら、御互いに、励まし合いながらの集いに、しましょう！



老生を、如何に、生き延びるか？(本田)

●森くんの亡きスーパーお母様のおかげで今夜はよもぎ風呂👉に入らせていただきました。「霊験あらたか」温泉あがり👉のようにポカポカ感が続き眠くなってきました。(お風呂)大石



歴史会 日曜日 8日

●26日は市の福祉バスを使って中部地区高齢者クラブ会長研修旅行で吹上町の大汝遅神社～万世特攻平和記念館～吹上砂丘荘(昼食)～美山遊芸館を巡る日帰り旅行に参加します。大汝遅神社は本田さんに案内されて行った大楠のある所かと思っています。(森)



●森さんは、ホントに、ご活躍ですね？！

そう、大穴牟遅神社の表参道沿いに林立しているのが、千本楠です、



あの10本たらずの、大きくて異様な大楠には、蒲生の史談会の方々も、伊作に負けたと、言っておられました(本田)

●1月9日

高岡筋もそろそろラストが近づいた？9日、今朝の南日本新聞から



豊臣秀長が陣所にした野尻城跡
＝小林市野尻町

高岡筋³⁹ 宮崎市

島津家久毒殺説を追う

での主戦派でもあった。豊臣の大軍に敗れた家久は東九州の総大将だった豊臣秀長に降伏し、秀長の陣所となった野尻城(現・小林市野尻町)に招かれた。しかし、その数日後の天正15(1587)年6月5日、居城の佐土原で急死を遂げた。家久の死因をめぐって、さまざまの史料もある。

田勝機「薩摩にいた明国人」。庄倒的に多いのは③秀長による毒殺説である。島津方の「中務大輔家久譜」をはじめ、「勝部兵右衛門聞書」「島津国史」「本藩人物誌」「西藩野史」など枚挙に暇なく、「鹿児島県史」もこれを採用している。また毒殺の方法も具体的に燻毒を用いたとする史料もある。

毒殺説はほかに島津氏以外の第三者の立場からもある。レイス・フロイス「日本史」は秀長が家久の酒盃に毒を混入したと述べる。また肥後の相良氏家譜「歴代嗣誠集覽」には、秀長が膳に毒を入れたことを家久が察して帰城後、毒消しを服用したものの、三日後に死去。死骸は墨のように黒かったとある。秀長の毒殺説が他の二説より説得力があるようにも見える。

豊臣秀吉は島津氏を屈服させると、薩摩、大隅両国と日向諸県郡を与えた。また家久にも佐土原城と城付きの知行を安堵している(「島津家文書」三七〇)。

正室・北政所宛ての消息で、家久も人質の女子を差し出すか述べている(桑田忠親「太閤書信」)。家久死去の十日から数日前である。これらを見れば、豊臣政権に恭順した家久を殺害する理由はないように思われる。一方、秀長の動向をみれば、一戦を交え、家久方の首級千余を討ち取っている(「豊臣秀吉文書集」三二二六八)。このこととはあまり知られていない。秀長は温厚な人柄という印象があるが、必ずしもそうとはいえない。天正14(1586)年、秀長は紀州を攻めたが、日高郡(現・和歌山県御坊市)の国衆・湯川直春が秀長軍に激しく抵抗した。攻めきれなかった秀長は直春と和睦、本領安堵を約束して大和郡山城に招いたうえ、直春を毒殺したと湯川方の史料は語る(「湯川記」)。

わずか一年前の直春のケースも家久毒殺説のいきつや殺害方法がそっくりである。むろん、秀長の背後には秀吉がいたはずである。一説によれば、秀吉は家久が存命なら九州の干支が収まらないと警戒していたという(「歴代嗣誠集覽」)。毒殺説も無視できないかもしれない。(歴史作家)

Ⅱ隔週月曜付に掲載

かごしま
街道見聞記

桐野 作人

【62】

高岡筋の終点は佐土原(現・宮崎市佐土原町)である。今回は戦国島津氏きつての名將で、佐土原城主だった島津家久(中務大輔、1547～87年)の死因を考えてみたい。

家久は島津四兄弟の末弟で、島原沖田騷、豊後戸次川の戦勝など、いくさ上手で知られる。そして大友氏の本拠・豊後侵攻

さまな風聞が流れた。主に①病死説②島津方の謀殺説③秀長による毒殺説である。

①は史料が少なく、「日本イニス会原文書」に「中務(家久)が病み、三日の間に熱(病)で死去」とあるくらいか。ほかにも「大島忠泰自記」などに「頓死」とあるが、③の婉曲表現ではないかと思われる。

②は「新納忠元勲功記」に島津家筆頭老中の伊集院幸侃が秀長に家久のことを讒言して殺害した(主語不明)とある。また明国の福建軍門許遠の記録は「幸侃が義久に迫って弟中書(家久)を殺させた」とする(増

●おめでとう祝ございます。

と言ってももう1週間が過ぎました。



飾り(門松、しめ縄)を外すのは8日まででしたか??

もう忘れてしまいました。

それでも正月といえば終戦後間もない上町市場

付近の焼け跡の遊び場が浮かんできます。

ぼくには第二の原風景です。

『佐土原』と言う地名は家久ではなくそんな第二の原風景であるカンマチの風景とダブル、幼い?ともだちの大平博美くん(大将だった)の成人後の住所としてでした。

...話し出したら長くなってしまうのでお預けしますが...隈元くんを通して興味を持つようになった戦国島津の世に豊

久(貴久の四男坊)の居城だった佐土原城にまつわる話しは興味が尽きない。又じっくり、本田哲郎説も聞かなきゃいけませんネ。

●ここは永吉島津家(始祖・島津家久・中務大輔)の研究で有名な本田哲郎さんが過去の鹿児島市の伊敷公民館での講座でも述べておられるので、自説を八期会メンバーへもご披露ねがいたいものだと思います。桐野作人氏は世間の③「秀長による毒殺説」が説得力があるとしながらも②の「島津方の謀殺説」もあり



るのではとの見解を示しておられるようだ。

さあ、ここは本田哲郎さんの出番である。

隈元達雄

●本田コメント

さあ、出番だとけしかけられると、つい、乗ってしまうのが、凡人の浅ましさです。



豊臣勢の、圧倒的な軍勢で持って、根白坂の戦いで、島津勢を負かした豊臣秀吉は、川内まで来て、島津義久と、和睦している。

その時、豊臣にいち早く反応、豊臣大名になる、と返事したのが、島津家久である。

なぜ、義久などの兄たちにも相談もせずに、家久は豊臣側の要請を、たんとくで受け入れてたのか？が、問題である。

彼は、幼い頃こら、自分自身の出目を覚っており、4兄妹の中でも、島津宗本家に対して、貢献したいという感慨が、孤軍奮闘した、沖田畷の戦い、戸次川の戦いなどで、如実にあきらかである。彼は、殊の外、祖父の日新公に教訓を受け、釣り野伏せ戦法などを編み出し、あらゆる大きな戦いで、勝利している。

最終的に、豊臣軍勢に敗北した時、三州島津は、どうなるか？、潰される運命でもあったのである。

島津家久は、豊臣側の意向、豊臣大名になれ、つまり、豊臣の家臣になれ！と言う要請に、いち早く、回答している。それも、ほかの兄達に相談もなく、自ら決断している。

おそらく、彼は、自分が、犠牲になつて、豊臣大名になる事で、三州島津家が、安堵されると思ったのだと、解釈できる。

ただ、義久、義弘達から見れば、3男の歳久は、秀吉こ憎くて、秀吉を暗殺を試みており、秀吉も、その事を感じて、歳久の自害を命じている。

そのような、4兄弟が、分裂しかねない状況は、兄達にしてみれば、我慢出来ない事態で、島津家の崩壊とわまり、弟ではあるが、成敗せざるを得ない事態と、なつたと推し量る事が、正しいと、思う。

島津家久の、けなげな決断が、兄達の怒りを呼んだことに、なつている。

この説は、亡くなった東大の山本教授や、島津家久、豊久の、作者である、山元泰生氏などが、島津側の毒殺説をとっている。

鹿児島の歴史家や学者は、今も、なかなかこの説を標榜する人は、いない。

●西山コメント



明けて、はや9日、祝日とか 何の日？成人の日とか！

我々のころ、成人の日というのはあったのでしょうか？

私には、あったという記憶はない！

上町の商店街の裏に戦災にあった石造りかレンガ造りの2階建てがあった。そこに住んでいる避難家族がいた。私はその2階にあった(赤塚?)珠算塾にしばらく通った。

家久は、秀吉の命による秀長の毒殺であったと思う

家久は、太閤検地に抵抗したのであろう

徳川家康との連携をも警戒したのであろう

和睦を結んで招き酒宴で一服盛るか

無礼打ちにするのはよくあること。

秀吉が将軍よりも天皇の命で政を行う関白の座を求めた

天皇の命、詔ということが太閤検地を進めたのでたのであろう

それによって、天皇をいただく古い制度、例えば、律令制度への

回帰を目指したのかもしれない。

太閤検地は、単に石高算定が目的であったのか？

●大石コメント

あの2階建ての石造り(コンクリートだったか?)の建物は『専売公社跡』と言ってました。たくさんの方が住んでいました。



赤塚そろばん学校には大龍の五年生の頃通ってました。

先生はノッポの曾根さんと言う二十歳くらい人で可愛いがってもらい、天文館に映画見に連れて行ってもらいました。

父親が心配してたのを思い出します。

車町にボーイスカウトの会場があってそこにも会員になり訓練??(制服制帽がカッコよくて)に参加して街のイベント等で交通整理の手伝いに参加してましたネ。

それにしても(歴史)作家の筆力は大したものですね。

初めてこの事件を(読んで)知る読者は第3の「秀長毒殺説」に傾斜間違いないと思いますね。

ぼくもこの事件に引っかかって他の歴史家説を読み漁り講演会に参加させてもらいました。

八期歴史グループにとってエポックメイキングな歴史上の事件ですね。

●森永コメント



新年おめでとうございます。いつも 配信感謝です

古戦場 島原市 沖田畷のこのごろ お届けします

島原 諫早方面へは 島津勢は何度も攻め上がり 佐賀勢と喧嘩しています

島原の乱では一揆軍に対し 連合軍の陣営に立ち 戦後農民150に馬100匹を加え移住した との話もあり

島原半島の一部では鹿児島弁によく似た言葉を聞くところもあります

自分出身地を聞かれたとき 島原と答えたことが何回もありました(笑い)

●1月11日 pm5:00

本田哲郎様からさらに詳しい『戦国島津家の謎！』—家久謎の突然死—について考察が届きましたので紹介します。



玉龍八期会のラインで、大石様など空「出番」を強要(?)されましたので、一応、自分なりの「想い」を書きました。

これが、今までの通説と異なっている事、今までは少数派の「学説」でもあります。

大石、隈元様などの意向を汲んで、拙い自説をこの欄に、改めて少し詳しく、申し述べます。

....

戦国時代の西暦1500年代の事です。薩摩島津家は、15代の島津貴久の時代での三州統一(薩摩・大隅・日向、宮崎県の西南部)を成し遂げた後、私に言わせばよせばよいの仁、九州制覇を試みました。

その時、15代当主の島津貴久の子供達の島津4兄弟(16代当主長男義久、17代当主2男義弘、日置島津家始祖3男歳久、永吉島津家始祖で生前は佐土原城主の4男家久)が、それぞれ、三州を離れて九州各地へ進出すべく、各地の武将達と戦いを挑んでいます。

その経過の中で、特筆されるのは、兄達の義久、義弘の戦跡(大宰府近くのい岩屋城合戦など)も大きな戦いを島津勢が勝利していますが、島原半島での「沖田暲の戦い」(佐賀の猛将、竜造寺隆信が相手)や大分の「戸次川の戦い—へつぎと読む」(大分のキリタン大名で有名な大友宗麟はじめ、豊臣秀吉の指示による四国からの援軍、長曾我部、仙石、十河一族などが相手、)などで、4男の島津家久が懸命に編み出した「釣りの伏せ戦法」などを用いて、少数勢力で数倍の勢力を貶める戦績を上げた、稀に見る武将でありました。

したがって、当時の島津家の九州制覇は、三州を基にほぼ九州全土にわたって、その勢力を伸ばしていました。この島津勢の台頭を懸念しを時の宰相、豊臣秀吉は、大友宗麟などの要請に基づき、島津勢の駆逐を目的に、25万人の軍勢を秀吉は九州西部から、秀吉の弟の秀長軍は九州東部から、島津勢への戦闘を開始しました。

島津勢は総勢でも5万人という戦力であり、とても豊臣軍の強大な戦力に抗することもできずに、九州東部の宮崎県の北部、「根白坂の戦い」で、島津軍は全軍、敗退しました。

そこで、豊臣秀吉は、薩摩川内市泰平寺で、剃髪した島津義久が謝罪して会見を行い、この戦いを終わらせたのです。

その時、豊臣秀吉は、島津家に対して、今後、豊臣勢として、豊臣大名として(所謂、豊臣家臣として)要請している。

そこで、4男の島津家久は、兄達にも相談もなく、いち早く、「豊臣大名になる」ことを豊臣側に通告している。

その結果、九州東部を南下していた秀吉の弟、秀長が、島津家久を秀吉の指示に基づき宮崎で饗応している。その夜から、

島津家久は、急激な腹痛を起こし翌日には、死亡している。

この島津家久の急死について、いろいろな死亡説がとなえられている。

A. 病死説

「島津中務大輔家久一代記」 山下正盛

「島津家久」 大迫 昭 ほか多数。

ホントは腹痛が激しく、戦闘の続いた島津家久自身の体調も優れなかったという事での通常の病死説。

確かに、島津家久は沖田躰、戸次川の戦いなどで、自身の身体を痛めながら、戦闘に明け暮れていた直後の、それも敵方の軍門に下る決断をした時の「宴会」であり、この腹痛が致命的な病死をもたらしたという事も言えるかもしれない。

ただ、歴戦のなかで、いつも家久は酒を好み、戦場でも痛飲していたとも伝えられている。

若い時からの歴戦の士であり、頑強と言われて、酒にも強い島津家久が、一夜の郷応の場で、腹痛を自然に起こしているとは、にわかには信じがたい。

B, 豊臣側からの毒殺説。

「島津奔る」 池宮 彰一郎、

「永吉郷土史」 天昌尋常小学校編

「島津義弘」 桐野 作人

「島津国史」

島津家関係の文書には、この豊臣側からの毒殺説は多い。

当時、島津家の家臣、伊集院忠恒が、豊臣側に寄り添うような事で豊臣側も伊集院氏を通じて、島津家の分断を図るほどのことがあり、家久が最初それに応じなかったことで、秀長が家久殺害に及んだという説である。

後には、次男島津義弘の嫡子、島津忠恒が伊集院忠棟を殺害した事で、この説が大きく取り上げている。後の井「庄内の乱」となっている。

ところが、豊臣秀吉の弟の秀長は、確かに島津家久の剛力な武将として、恐れてはいたらしいが、当時、絶対的な権力を保持していた兄、秀吉が島津家久の事、それも、わが豊臣の家臣になると返事している男を殺害に及ぶという事は考えられない。

むしろ、豊臣秀吉は、全国制覇が成就して、さらに、後の朝鮮への進出も考慮に入れていただろうから、この時、島津家久の豊臣大名としての活躍を期待していただろうとも推測されるからこそ、弟、秀長に饗応を摂らせたと視る方が、正しいと思える。

従って、豊臣側からの毒殺説は、考えられない。

C, 島津側からの毒殺説

「島津戦記」 寺尾 美保、「九州戦国物語」 青山 康次

「兵農分離と幕藩体制」 原 昭午

「島津家久と島津豊久」 山元 泰生

「島津義弘の賭け」 山本 博文

これは、正直、少数派の説である。今まで、島津家研究の歴史家のなかでも、この説をとる学者は少ない。

しかし、当時の根白坂の戦いで、完全に豊臣側の勝利となって、4兄弟はそれぞれの自己の管理地に帰っている。

当然、島津家久はそれまでの佐土原城主であった事によって、根白坂から佐土原城に帰着した後、豊臣側の指示である

「今後、豊臣の大名になれ！」という事について、おそらく佐土原城、並びに佐土原地区の自分なりの生き方も考慮した
だろうが、

島津家久は単独で、自分一人の感慨で、豊臣側の意向に沿って「豊臣大名になる」つまり、豊臣側の家臣になる、と返
事している。

このことは、島津4兄弟、今まで多くの戦を重ねてきたが、その都度、4兄弟で合議しながら、合議がまとまなければ、
籤まで引いて、戦いをやるか否かなどを決めてきている。兄弟そろって、このような事態に協議して決めてきたのが、
島津家のシキタリともなっている。

このオキテとも言える事前協議もなしに、いち早く単独で豊臣側の意向に沿うとは、島津義久、義弘の兄達から見
れば、弟のシワザとはいえ、誠に僭越であり、自己本位と見られても仕方ない。

さらに、それ以前から、3男の歳久は、何とか豊臣秀吉を暗殺したいと、薩摩川内市の泰平寺での講和会談が終わっ
て後に、豊臣秀吉の帰路の藺牟田池周辺で、秀吉の隊列を襲ったが、殺害はできなかった史実もあり、後に、秀吉から
歳久の自害を求められている。まさに 豊臣側の島津家分断の意図と、島津家(4兄弟)の崩壊を狙っていたと思え
る。

このように、家久の独断の決断は、ほかの兄達の怒りを買ったに相違ないと思われる。たとえ、今まで島津家のため
に大いに戦い、その戦績を上げたことによって、佐土原城主となり、4兄弟のなかでも「戦さ上手」と崇められてきたが、
今回の豊臣側になる事の決断は、なんとしても、まだ、今後、将来の島津家の帰趨が明確でない時点での、単独行動
は、兄達からすれば、看過できないと視るのが正当と思われる。

従って、兄達にすれば、「泣いて馬謖の首を採る」心境であったとみられる。

その証拠に、島津家久の急死で、佐土原城下衆が騒ぎ出した際、いち早く、2男の島津義弘は甥子(家久の嫡子、豊
久)に書簡を送り、「今の時期、騒ぎでない。

病死として佐土原を纏めよ！」との趣旨であった。これなどは甥子豊久に宛てた書状であり、家久の毒殺説を密か
に否定しようとしているとみられる。

また、これは、自説の根幹をなす根拠ではあるが、当時の島津家久の本人の立場、本人の意向が如何であったかとい
う、主体的に考えると、家久は、自分が元々、側室の子供であり、島津4兄弟の末弟としての処遇をもらっただけ
に、ことのほか、島津総本家に対する貢献したいとの一心で、これまで、「釣野伏せ」戦法などを長年の研鑽の上、多く
の戦いの場で、成功させ、島津家の九州制覇の一環をになってきた。その後、豊臣側家の軍門を下った現在、彼は、
いかに行動するか？ どうしたいか？を、彼の立場で押しはかりたい。

それは、彼として、自分が犠牲になって、豊臣側に就くことによって、島津家の帰趨というか、このまま豊臣秀吉に潰
される運命を救うことができるだろう、今までの三州統一の安堵が得られるであろうとのい島津家久の「考え」ではな
かったであろうか？との解釈である。自分を捨てる事で、島津家がなんとか存続できればとの、ほんとに麗しい
「選択」をしたと解釈したい。

そのことは、兄達からみれば、家久のいち早い独断であり、ケシカラン事であるとの判断がなされたと、見れる。

佐土原地域に残っている伝承ではあるが、この豊臣秀長の饗応の夜の直前には、島津総本家から来た女中がいて、
その後、彼女らの遺体が佐土原城下で発見されたという話も佐土原の古老から来たこともあり、地元では、この説も生
きているようである。

結論としては、自分は、このような戦国史をちっとばかり齧った、にわか「お勉強」さんではあるが、歴史を紐解く時に、最も大事なことは、歴史、特に今回のように500年も以前の史実と言っても、その証拠になるものも、その後の書簡集であり、それがどの時代に、だれが、どんな立場で書いたか？などを勘案すれば、ただ一つの古文書、書簡、文集、日記など多く存在するが、これらだけを基に、歴史を理解する、主張する事とは思えないのです。

自分としては、その時点で、その本人の立場でどのような行動をとるか？を、今の自分がその本人の立場で考えてみる。自分だったらどのように行動するか？を念頭に、当時の行動を論じる所に、歴史を学ぶ面白さを感じています。皆様の、限らない叱咤とご助言を望みます。

2023、1、10、 本田 哲郎。

● 1月13日 pm6:37

本田さん



さすがですね。

しかも体調も優れない中で、これだけの説を長文で披瀝されるファイトに驚きました。

今年もまだまだ元気でいけますよ。お互いに切磋琢磨しましょう。

島津家、とりわけ島津四兄弟の中でただ一人母親が違った末弟の家久の立場や心境を本田説はよく理解できるように解説されていますね。

正直、私はどの説が正解なのかよく解りませんでした。本田さんの「島津側からの毒殺説」を見て説得力があり、私もその説に大いに興味を持ちました。

今後、私もまたいろいろなことを調べてみたいと思います。

ありがとうございました。

隈元達雄

●1月16日 12:42 **かごしま城廻り**

連載が始まります。『鹿児島城巡り』800ヶ所



もあると書いています。ほとんどは山城(跡形だけの)かもしれませんが、(個々にとっては)新しい発見もあるでしょう。 ケイジ

第1回目です  みなさん!!楽しみなようですが、多くの知る限りでは城跡、それも原っぱが正しいようです。

新しくご楼門の完成した薩摩島津のシンボル「鶴丸城の御楼門」もお隣、熊本城のような素晴らしい天守閣ではなく城門ですものね。

● 14:39



大石さん

鹿児島県内に お城が 800箇所もあった 非常に興味を持ちました。楽しみにしています。

ありがとうございます。

木場 祥雄



鹿児島に城 800 とは



律令制度の班田収授法から荘園へ、荘園の用心棒から荘園乗っ取りへ

おそらく初期には10~30人程度、いずれにしても一族郎党の少人数で自分たちの領域を守り、隣地を奪いに行ったのでしょう。

戦国時代前夜のことでしょ

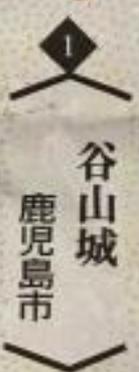
鹿児島に城 800、楽しみにしています。



※国土地理院ウェブサイト
の陰影起伏図を加工して作成

鹿児島市のJR慈眼寺駅近く、住宅街に隣接する山城跡だ。南北朝時代、南朝方の谷山氏の拠点で、後醍醐天皇の子、懐良親王も入った。戦国時代には、島津家の内紛に巻き込まれた。高さ約50層の場所にある本城に加え、弓場城、陣之尾城という支城で構成する。山城跡だが、本城一帯の森林は市の「かごしま自然白選」に選ばれ、中心の曲輪(主郭)まで遊歩道がある。初心者も気軽に登城できるのが

かごしま城巡り



谷山城

鹿児島市

住宅街近く初心者向け



両側を切り立った崖に挟まれた谷山城の大手口。鹿児島市下福元町

特徴だ。

道路沿いの案内板が本城の大手口への道しるべ。細い路地を進むと、だんだん両脇が切り立

った崖になる。さらに進むと、両側を曲輪に挟まれた別の道と合流する。

大手口から主郭の入り口までは10分少々。敵が直進できないよう角度を付け、脇に回ると高さ10層超はあろうかという空堀も目に入る。主郭は東西約40層、南北約20層で、高さ1・5層の土塁が巡り、その先は絶壁。眼下が住宅街とは思えないほど遺構が残る。

同市のふるさと考古歴史館では22日まで、城の歴史や出土品を紹介する企画展を開催中だ(16日休館)。中村友昭学芸員は「谷山地区を一望できる立地で、重要な拠点だったことが分かる」と解説する。(上植元大輔)

戦の絶えなかった中世から近世初めにかけて、鹿児島県内では800カ所にも上る城が築かれたという。歴史ロマンあふれる城跡を訪ね歩く。(随時掲載)

●17:57 隈元

鹿児島県の城の数 800 には驚きました。



私達を知る「薩摩では城をもって城とせず、人をもって城となす」は、外城制度で120ヶ所あったともいわれる麓が作られた時代のことで、それまでの戦国時代以前は群雄割拠で西山説のような実態だったのでしょね。いずれにしても800もの城跡には興味がありますが、殆どは何も残っていないのではないのでしょうか。



写真は薩摩半島の伊作城(島津貴久は戦国島津四兄弟のお父様の墓地)

●いつも興味ある情報をありがとうございます。県内に城跡が 800 もあるとはびっくり仰天。



父を古生代カンブリア紀の三葉虫、母をデボン紀のアンモナイトとして生を受け、両社の遺伝子をばっちり受け継いでいる。

そのためか、近代兵器(PC、ネット)を十分に使いこなせない。

大石慶二君には懇切丁寧にご指導いただいたが、悲しいかな、学習能力はストップしたまま。それで、いつもご無沙汰、失礼している。

崎元雄厚

●7:47

崎元さん



あなたの文章はいつも素晴らしい
新たな学習など必要ないほどです
あなたのお話に期待しています。

=====

西山和宏

=====

● 宮崎県の『飢肥城』を始め、お隣、宮崎県には城跡ではない、しっかりと、こ



れは紛れもなく城と判る建物、とりわけ石垣などは立派なものが沢山残されている。島津四兄弟の4番目・家久の城「佐土原城郭」も立派な形で保存されている。右それらの城です。



●2023年1月22日(日)正午ごろ...

大相撲初場所・千秋楽を観ていた。

電話が鳴った...東京の S・K 氏からだった。大隅の N・T さん関係で帰って来たとのこと...



「ワイ(あなた)があん！坊さんを書いてたのには感心したど...何とか法師よ！うんにゃ大師か？...」

「伝教法師ね？」「最澄のこと？」と答えると、「じゃもんか？」「あの本の中の遣唐使よ」「ええ円...？なんとかね」...と頭の中では、二人とも分かっていたのだが、名前が出てこないのである。

『入唐求法巡礼行記』ライシャワー訳の『円仁 唐代中国への旅』の主人公・円仁(慈覚大師)の名前が出てこない。

地引網は綱を引いた者にも分け前が配分される
遠洋航海の漁船では、役職に応じた漁獲からの取り分が決められる
倭寇の多くは中国人であったろう。
「琉球の風」読んだと思うが書棚に見つからない。

最近、読んだものでは「五峰の鷹」安部龍太郎がそれらしいものであった。
藪ではないかもしれないが、へぼ医者では原因が分からない、しっかり治せないとき
「もう、御年ですから」となぐさめ、言い訳をする。

経年劣化もあれば経年熟成もある。

西山 和宏

堀田昌子・フレスランス！（みなさん！東京で待っていますよ！）



関東の同期会 10・10・10（日本橋）のお知らせ！！

上京の際はこの頃を目指してください。1日で10人余りの同期生に会えます。

……………Nくんみたいに……必ずもう一度（死ぬまでに……）上京を、と思っている方もあり…………

子供さんが、関東にいる方……

そんな方に、同期生にも会わせてあげたいのです！！

会いたい方を……連絡して下さったら私から会えるように（その方に）知らせます。

初場所終わりました。明日は日本列島雪景色

●1月23日

今日、「高岡筋」細島港は薩摩藩海路の出入口。



最澄の弟子『靈仙』とは何者??

円仁（慈覚大師）が最初の五台山の入山者と思っていたら靈仙
（空海・最澄と一緒に唐に渡った）が唐にひとり残った。崎元さん!

詳しく知っているのでは？ 今日から中国は春節🇨🇳

昨日は過年（大晦日）の祝い日です。留学生に餃子プレゼントしました。



●1月26日 新聞「高岡筋」細島港

細島港の思い出。

大石様の「3 個の添付」のうち、「細島港」の記事で、思い出す事は記事にある通りの、戦国時代などから、薩摩（藩）



などが上洛などの時に利用した港である事は、郷土史を学ぶことで知っていました。

島津義弘が関ヶ原合戦後、「敵中突破」を敢行して、鹿児島へ帰還する時の船も瀬戸内海経由、この港についてここから、島津豊久の領地の佐土原の寄って豊久の母や妻にお礼と謝罪を述べて、鹿児島へ向かったことは、知られています。

蛇足ですが、その時、大阪城に人質として派遣されていた、義弘の細君や息子、義久の娘、亀寿なども一緒にの船に乗船できて、無事、鹿児島へ帰還できた由です。

実は、自分も、22年前、それまで学生時代から約40年住んでいた関東から、今の故郷、吹上町に引き揚げてきた時、川崎港から細島港に一晩泊まりの船旅で、帰郷した時の九州上陸の港でした。

その時、家財道具などは、勿論、サカイ運送のトラック2台でお願いしましたが、乗用車も運ぶため、当時、大型フェリーの定期船がありましたことで、船便で帰郷した次第です。

はじめての細島港・湾でしたが、その時、湾口から船着き場の岸壁まで「長い湾」だなという感慨を覚えた事でした。

後になって、このように薩摩大名などが、参勤交代などで、利用した古からの良港であったことが分かりました。それだけに、一層、自分にとっては、忘れられない「港」となっています。



● 26日

細島港を利用されたのですか。今思えばいい記念でしたね。



ぼくらも一昨年でしたが、宮崎・佐土原・都城...を4人の歴史仲間と回った時、その港(細島港を知りませんでした)を訪ねたかったのですがとても時間が足りませんでした。

西都原古墳の木花咲耶姫陵も含め、も一度ゆっくり回ってみたいです。

出来たら今年は八期歴史仲間達と壱岐対馬も船で周りたいたいです。

● 27日

本田さん



良い経験をなさっていますね

島津義弘が関が原から引き上げる時、大阪城にとられていた人質を救い出して薩摩に逃れたとき、堺の商人の手助けがあったと読んだような気がします。

● 28日

西山さん、大石さん」コメント、ありがとう！！

佐土原、都城方面、行かれたのですかね？！ あの付近には、ほかにも、戦国時代からの西都市、小林市など、



歴史豊かな土地柄です。

是非、再度お訪ねください。 都於郡城址(とのこうり城と呼ぶ)、木崎ヶ原合戦跡、永吉島津家飛地(堤村))など、史蹟が多い地域です。

島津義弘は関ヶ原からの帰途、上石津町から山越えて苦勞して堺港に出て、今まで薩摩と交流していた大商人の助けを借りて、船便で帰郷しているのです。

おっしゃるように、なんと、大阪城に人質としてとらわれていた兄、義久の娘、亀寿屋自身の妻たちまで、大坂城の管理者に島津義弘は東軍(徳川側)によ__って殺されたと嘘を通して、大阪城を出ることに成功して、彼女らと大阪湾内で合流して、瀬戸内海経由、「細島港」に上陸し、その後、宮崎・佐土原経由、陸路で鹿児島までの道程であったと伝えられています。

●本田さん

早速のご返事 ありがとうございます。



人質救出の方法を、島津義弘が討ち死にしたと嘘をついてとのこと、納得です。

薩摩と交流があった大商人、ともに南蛮貿易の仲間、鉄砲と銃弾に関する事が強かったのではないのでしょうか。

●1月28日

昨日は私を励ます会を開いていただきありがとうございました。



改めて皆さんの友情に感謝です。

この歳になって、このような会が持てる私たちは本当に幸せだといつも思っています。

私も妻亡きあと元気を出そうしたり、あるときは落ち込んだりの毎日を過ごしていますが、子供や孫たちと余生を精一杯生きようと思っています。これから定例のグラウンド・ゴルフに出かけます。今後ともよろしく願いいたします。 隈元



●昨日は有り難うございました。皆さんと楽しい一時を過ごすことが出来何よりでした。クマさんも元気そうで安心しました。また集まってガヤガヤしましょう！！ 森



●いいメンバーでしたね。



欠けることなく全員道長になりましょう。

2泊3日の鹿児島発着の『八期夢旅』企画しませんか？

●28日

新春恒例の【外国人による日本語スピーチコンテスト】が開催された。

今回で28回目になる大会は最初の10回目までは大石の所属する団体「鹿児島市日中友好協会」の主催事業でした。従って出場者の90%は中国人留学生でした。



その後も比率こそ少なくなりましたがたいい優勝者は中国人が多かったのですが、今回選ばれた10名の出場者の中に中国人はいませんでした。

昨今の日中関係を考える、少し複雑は気持ちがありました。最優秀賞に輝いたのは韓国から神村学園高等部に留学してきた女性でした。



『円仁・靈仙三蔵・そして五台山をめぐる(遣唐使物語)』

私たちが三蔵法師と言えば西遊記でなじみの深い玄奘(げんじょう)三蔵を思い浮かべますが、その三蔵法師の称号を皇帝より授与された日本人僧が一人います。

それが**靈仙三蔵**です。靈仙は近江国醒ヶ井(さめがい)(米原市)の出身と言われています。と言いますのは、阿波国出身説もあるからです。

天平宝字3年(759)、近江国多賀郡の豪族である息長氏(おきながうじ)の出身。18歳で奈良の興福寺に入ります。法相を研鑽し、延暦23年(804)、第18次遣唐使団の留学僧(るがくそう)として入唐(にっとう)します。この時の遣唐使団の規模はおおよそ600名。4隻立ての船団で、**第1船には遣唐大使と空海、第2船には遣唐副使と最澄、そして靈仙たちが乗船**しています。結果的にはこの2隻だけが入唐を果たしています。当時の航海の危険さを示しています。

靈仙は長安で般若三蔵に師事し、梵語(サンスクリット語)の修学に努めます。

810年、時の皇帝憲宗の命により、新出の梵夾(紙ではなく貝多羅(ばいたら)樹という植物に書かれたサンスクリット語のお経)の漢訳に従事します。般若がサンスクリット語で書かれた原文を読み、それを靈仙が漢字に翻訳します。そうして完成したのが「**大乘本生心地観経**」です。この功績によって靈仙は三蔵法師の称号を皇帝より賜ったのです。

さらに驚くべきは、この經典が大正2年石山寺で発見され、その巻末に「醴泉寺(れいせんじ)日本国沙門**靈仙筆受**并譯語」とあって、靈仙がサンスクリット語を聞き取り、漢語に翻訳したことがはっきりとしたためられています。所期の目的を果たした最澄、空海は無事帰国して天台宗、真言宗を開き、今日の繁栄の基盤を築いたことは、今さら言をまたないところであります。

一方、唐に留まり皇帝に重用された靈仙は再び祖国の土を踏むことはありませんでした。彼の地で才能を認められ、日本僧で初めての三蔵法師の称号を授与された靈仙は、最澄や空海に勝とも劣らぬ平安時代を代表する僧侶であったのです。仏教を篤く庇護した皇帝憲宗は反仏派により暗殺されてしまいます。身の危険を感じた靈仙は長安を逃れ、五台山に隠棲しますが、**天長4年(827)毒殺され、68歳の生涯を閉じた**ということです。もしも帰国が叶っていたら日本仏教は…。

当時の皇帝、憲宗(けんそう)は熱心な仏教の信者であり、靈仙は寵愛を受けて秘法中の秘法、「大元帥法」を学ぶことを許されます。この法は、大元帥明王という仏を本尊として国家鎮護や怨敵調伏などを行うという秘術であり、宗教的な**国家防衛に関する機密事項**でもありました。

しかし、この秘法が日本に漏洩することを防ぐため、靈仙は帰国を禁じられてしまいます。

事実上の軟禁状態となり、ついに日本の地を踏むことなく唐で没した靈仙でしたが、「大元帥法」を祖国に伝えるべく壮絶な方法で弟子に託しました。表立って大元帥法を伝授することはできないため、不自由な生活のなかでその姿を記録するため、なんと**己の手の皮を剥ぎ、そこに本尊たる大元帥明王の尊像を記した**と伝わっています。



靈仙の決死の思いは彼の死後、弟子を経由して後代の入唐僧に受け継がれ、やがて日本にその秘法が知られることとなりました。

石山寺での大発見 彼が生きていたと考えられるのは奈良時代末期から平安時代の初期。**最澄や空海とともに遣唐使として唐に渡ったとされる延暦 23(804)年は、1200 年以上昔である。**当時の文献や記録で現存しているものはたいへん少なく、ましてや唐で一生を終えたとされる靈仙について記された史料を探すのは至難の業だ。

ところが大正 2(1913)年、当時の内務省が滋賀県大津市の石山寺で宝物調査をした際、寺の経蔵からあるお経の古写本が見つかった。『大乘本生心地観経(だいじょうほんじょうしんじかんぎょう)』という、舌を噛みそうな難しい名前である。これは両親家族・社会の人々・国家・仏教という四恩(四つの恩)に報いることの大切さを説いた經典なのだそう

五台山まで約 1200 キロを踏破した円仁

石山寺における『大乘本生心地観経』の発見により、靈仙の存在とその業績は証明された。しかし、靈仙とともに遣唐使として海を渡ったという最澄・空海も、残念ながら彼の消息を伝えてはいない。そのため、彼の名を知る人は仏教界でもごく一部であった。ところが**約 30 年余の後**、唐に渡った天台宗の僧侶・**円仁**は、偶然、靈仙の消息を知ることになり、断片的ではあるが、唐での靈仙のその後を『**入唐求法巡礼行記**(にっとうくほうじゅんれいこうき)』に書き残している。同書は約**12年**にわたり、唐で求法と巡礼の旅を続けた円仁の詳細な紀行文である。

円仁は最澄の愛弟子であり、後に天台座主(てんだいざす:天台宗の法脈の継承者で比叡山延暦寺の住職)となった高僧だ。慈覚大師(じかくだいし)円仁ともいう。遣唐使になったものの、二度も渡航に失敗。承和 5(838)年、三度目でようやく成功し、入唐を果たした。

遣唐使船も初期は朝鮮半島沿岸沿いの比較的安全な航路をとっていたようだが、後期になって新羅との関係が悪化したため、東シナ海横断ルートを取り、海難事故が頻発したようだ。当時は羅針盤もなく、航海術も未熟で、まさに命がけの船旅だった。

円仁は師の最澄が教学を学んだ天台山に行くことを切望するが、短期留学僧であったため許可が下りなかった。天台山

は浙江省(せつこうしょう)にある古くからの靈山で、天台宗の根本道場である。最澄は天台山に入山して菩薩戒(ぼさつかい:菩薩として守るべき掟)を受けている。弟子としては何が何でもその目で見たい場所であったに違いない。そこであれこれコネを頼ってなんとか唐に残ることに成功したものの、天台山に行くことは叶わず、代わりに五台山へ行くことを勧められる。五台山もまた中国仏教の聖地の一つであり、実は**靈仙がその生涯を閉じたとされる場所であった。**



復元された遣唐使船。これで日本海の荒海を越えて大陸に渡ったのだと思うと、当時の人々はチャレンジャーだったのだなと感慨深い

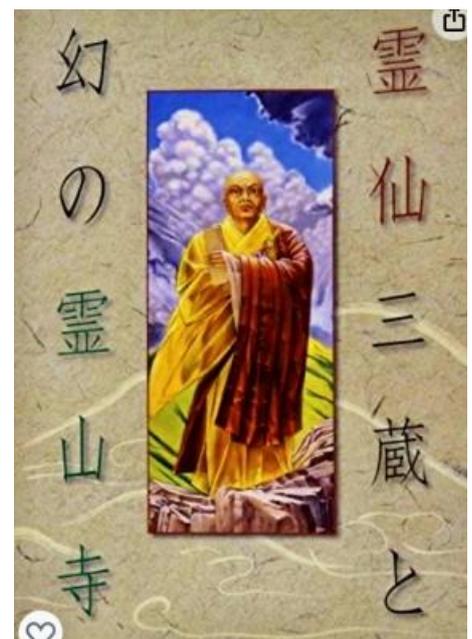
志篤い円仁は、五台山まで約 1200 km余の道のりを約 2 か月かけて踏破している。円仁は見た!? 手の皮に描かれた仏の姿を、ようやく五台山に到着した円仁は、ここに来た日本人僧侶が過去にもいたことを知る。それが靈仙だった。円仁は五台山の普通院を訪れる。普通院とは五台山を巡礼する人々が宿泊や休憩などをするための施設であった。その際、西堂の壁面に書かれた次の一文に出会ったという。

日本国(にほんこく)内供奉翻經(ないぐぶほんきょう)大徳(だいとく)靈仙、元和十五年九月十五日この蘭若(らんにゃ)に至る

皇帝の祈禱を司った日本人の高僧で、お経の翻訳にも携わった靈仙が、**元和 15(820)年 9 月 15 日**に、人里離れたこの閑静な場所にやってきたと書かれている。円仁はさぞビックリしたことだろう。この後、彼は五台山の僧侶たちから生前の靈仙についての話を聞き、それを詳細に書き留めている。五台山は文殊菩薩(もんじゅぼさつ:智慧の象徴)の聖地とされ、靈仙が一万の文殊菩薩を見たということ。

また、彼は自分の手の皮をはぎとってそこに仏像を描き、その仏像は五台山にある金閣寺の金銅の塔の中に安置されていること。そして、円仁は五台山でその仏像を拝観したというのである。金閣寺は唐代に建立されたが、近年、文化大革命の際に宗教施設は徹底的に破壊され、寺の中にあつた文化財はすべて消滅してしまった。

現在の建物はすべてその後には再建されたもののようである。したがって、円仁が見たという手の皮に描かれた仏像が実在したかどうかは確かめる術がない。真偽のほどはともかく、これらのエピソードは靈仙の信仰の強さを物語っているといっていだらう。



渤海(ぼっかい)僧が果たした靈仙と朝廷の橋渡しそして、とうとう円仁は、その昔靈仙が暮らしていたという七仏教誠院で、**渤海僧・貞素**が板に書いた『日本国内供奉大徳靈仙和上を哭(こく)する詩ならびに序』が、壁に打ち付けられているのを発見する。**渤海僧・貞素とは何者か。彼は靈仙とどんな関係にあつたのだろうか。**渤海は 7 世紀後半から 10 世紀のはじめにかけて朝鮮半島北部から中国東北部、ロシアの日本海沿岸部にかけて存在したツングース系民族国家で、日本とは貿易、国交を含めて緊密な外交関係にあつた。唐との関係も良好で、遣唐使を派遣して留学生を送り、唐文化の吸収にも熱心で、政治制度にも唐の律令制を導入している。

靈仙は遣唐使の一員として唐に渡つたというのが通説だと述べたが、語学の習得にはある程度の年数が必要と考えられることから、延暦 23(804)年よりもっと早い時期に、渤海の使節団と共に唐へ渡つたのではないかという人もいる。そう考えられるほど、日本と渤海は親密な関係にあつた。

そんな中で**貞素**が果たした役割は、日本の朝廷と**靈仙**の中継役だった。靈仙の活躍は日本にも聞こえていたとみえて、天長 2 (825) 年、**淳和(じゅんな)天皇**は、**靈仙**に届けるように**貞素**に**黄金百両**を託している。その返礼として、靈仙は貞素に**仏舍利**(ぶっしやり:釈迦の遺骨)や**経典**などを託して日本に届けさせたという。この時点では、靈仙はまだ生きていたことになる。(淳和天皇は53代で52代は嵯峨天皇。桓武天皇の第3皇子で嵯峨天皇とは異母弟である)



淳和天皇 - 维基百科, 自由

表示

その後、日本側は貞素の苦勞をねぎらい、彼が渤海に帰国する際、新たに靈仙への金百両を託し、日本にいる靈仙の弟妹に、阿波国(あわのくに:現在の徳島県)の稲を千束支給するよう計らった。

天長 5 (828) 年、**貞素**は託された**金百両**を持って再び**五台山**(写真右は大石が撮影)を訪ねるが、この時すでに**靈仙**は亡くなっていた。彼の死を知った貞素は慟哭(どうこく)し、『日本国内供奉大徳靈仙和上を哭する詩ならびに序』を板に書いて、壁に打ち付けた。円仁が見たのはこれだったのだ。 **靈仙は五台山で毒殺された?!**



これが史実とするなら、靈仙は**天長 2 (825) 年～同 5 (828) 年の間に死んだことになる。(写真は大石撮影)**

その後、円仁は五台山の靈境寺に行き、靈仙の死の真相を知る。それによれば、靈仙は靈境寺の浴室院で毒殺され、遺体を埋葬した場所もどこか分からないということであった。仏典の翻訳を手伝い、三蔵の名を与えられたとされる高僧がなぜ、唐の都・長安を離れて五台山の辺境の地で毒殺されなければならなかったのか。いったいだれが靈仙を殺したのか。墓の場所もわからないとはどういうことか。円仁は靈仙の死について、それ以上知ることはできなかった。それからまもなく唐では仏教の弾圧がますます強まり、円仁にも危険が迫っていた。

彼は国外追放というかたちで出国を許され、その際強制的に還俗(げんぞく:僧侶から一般人に戻る事)させられている。とにかく、最初から最後まで、ハハラドキドキの円仁の唐滞在であった。

靈仙の死のカギを握るとされる「大元帥法」

ところがこれより約半世紀後の貞観 19 (877) 年、**寵寿(ちようじゅ)**という僧侶が朝廷に奏上した『太元法縁起奏上』の中に、靈仙の名が登場する。寵寿の師は常曉(じょうぎょう)という僧侶で、彼は空海の弟子であり、入唐八家(にっとうはっけ)の一人だった。入唐八家とは密教の日本伝来に貢献した 8 人の高僧のことだ。寵寿にとって師である常曉が「大元帥法」をいかにして日本に伝えたかを朝廷に奏上したのが『太元法縁起奏上』だった。「大元帥法」とは何か。この書と

靈仙の死は何か関係があるのだろうか。『帝都物語』にも登場した「大元帥法」とは、国外不出の鎮護国家の呪法だった『太元法縁起奏上』によれば、遣唐使として唐に渡った常暁は、靈仙の弟子だったという3人の僧侶から、大元帥法を修するに必要な曼荼羅(まんだら)や法具などを伝えられたという。靈仙は死に臨み、彼らに「日本から仏法を求める僧侶が来た時は彼に伝えよ」と言い残したのだった。

靈仙は「私が仏法を求めたのは故国日本のためだったが、唐が私を引き留めたため、帰国できず、志を遂げられないのはとても残念だ。仏像や翻訳したお経などはすべて日本へ渡ったが、大元帥法だけは日本に伝わっていない。この法は鎮護国家のための秘法である。宮中以外で行ってはならない」と伝えたとされる。

国外に出すことはタブーだった真言密教の秘法を、靈仙はなんとしても母国日本に伝えようとしていたのだという。

決死の覚悟だったに違いない。しかし、果たせず死んだ。彼の毒殺はひょっとするとこのことに関係があったのかもしれないし、靈仙が手の皮をはいで描いた仏像は「大元帥法」の本尊・大元帥明王(たいげんみょうおう)だったのではないかという人もいるようだが、そんな気がする。

大元帥明王は国防や国家安泰を祈願する仏法の守護神である。

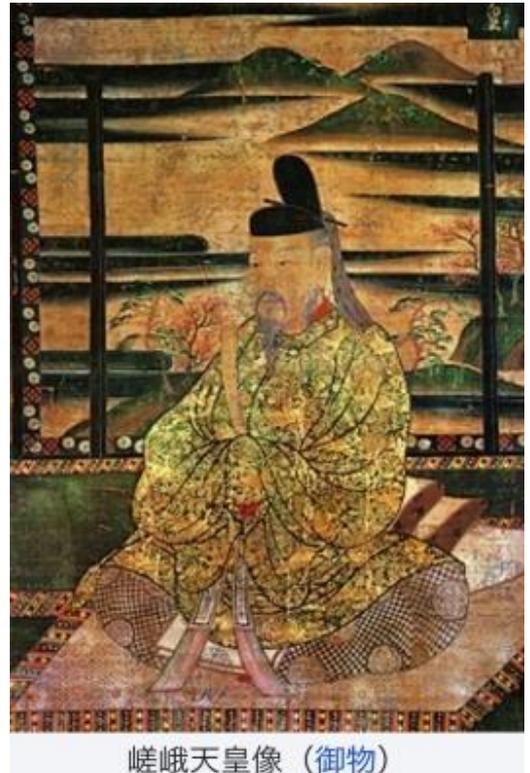
古くは元寇や平将門(たいらのまさかど)の乱、近年では太平洋戦争においても「大元帥法」による連合軍調伏の祈祷が行われたという。

「大元帥法」は平安の昔から昭和の時代まで、宮中で密かに受け継がれてきた国家機密の呪法だった。

ところが平安時代には中宮定子(清少納言の仕えた女性で一条天皇の中宮。藤原道隆の娘)の兄・藤原伊周(ふじわらのこれちか)が藤原道長との政権争いで「大元帥法」を私的に行って大問題となり、処罰されている。(おわり)

あとがき

なぜこんな話に興味があるかと言えば、自分(大石)が円仁、靈仙三蔵が修業をした五台山を独り訪ねた経験がある。資料を読んでいると、あの五台山の風景が目に見えてくるのであたかも自分が円仁(慈覚大師)の気持ち分かるような(時に、なったような)気がするのである。 大石



嵯峨天皇像 (御物)

